

先週のできごと

太田元治

ラスト5分の幸せ。それは先週のことでした。午後3時半から1時間半の生放送。最後の曲がスタートした。一日が暮れるのが早くなってきたね。そんな秋の夕暮れにピツタリ。ニニ・ロツソ、夜空のトランプ。と曲紹介をする。ふと、ガラスの向こうに目を転じると80はゆうに超えると思しき男性が目目の前のスロップで足を止めるのが見えた。はじめは息切れでもしたのかと。なおもスロップの手すりに左手を添え立ち止まっている。やがてその指先が微かに動き始めた。さらに右の足も小刻みに動く。そう、曲に合わせてリズムをとっていたんだ。ニニ・ロツソに、夜空のトランプ。ニニ・ロツソに、想いを寄せている。村上春樹風に言うつまりこういうことだ。おじいさんは心の中に大切な大切な「蔵」を

持っているんだ。そこには大切な思い出がいっぱい詰まっている。蔵の前には鍾馗様みたいな恐い顔をした番人がいてがちりガードしている。でも恐る恐るこう云うんだ。「すいません。思い出の扉をちよつと開けてみてくださいませんか？」すると怖い顔が崩れて「お安い御用で」と云う。そして3分間ぶんの思い出が、その蔵から一気に湧き出したというわけなんだ。

トランプペットが鳴り止んだ。曲が終わる。そうしておじいさんは改めて僕たちを見る。なんと、右手の親指を突き出している。

「いいよね！」

エンディングに向かうラスト5分。
胸があつたまる、秋の夕暮れ。